

---

# ドミンゲ

遠藤香

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ドミネング

### 【コード】

N9625M

### 【作者名】

遠藤香

### 【あらすじ】

古よりつたわる「ドミネング」とはなに？

## プロローグ

マスコミと野次馬、そして警察に囲まれた一つの銀行。

中島は野次馬の中にいた。この銀行に強盗が押し入り、客を人質をとりシャッターを閉め立てこもっていた。

立てこもり開始から4時間。なかなかの持久戦だ。

犯人が要求した逃亡用の自動車の人々をかき分け銀行のすぐそばまで来た。

やばいな。中島がそう思ったとき。

パン!!

銃声が周りにこだました。

非日常的な音に中島の周りの野次馬が悲鳴を上げる。

恐れていたことが起きた。そう判断した警察が中に突入しようとした、その時。

閉まっていたシャッターが開き始めた。

中から一つの人影が逃げるように外に出てきた。

その人物は気が狂ったように叫んでいた。

「中に、中に化け物があるウウウウウ!!! 拳銃が効かないんだ!!!」

たすけてくれえええええ!!!」

その人物が銀行強盗犯だと中島が気付いたのは、警察が犯人を確保した後だった。

## 第1部 1 探る青年

「おかしい」

中島はつぶやいた。

銀行強盗から3日。

中島は現場にいた。あの事件のことが気になっていたのだ。

中島は三流の雑誌記者だ。記者と言っても入社したばかりで、まだ先輩の取材について行くだけで記事を書いたことがなかった。それでもこの事件の異常さは何となく感じていた。言葉では表しづらい、妙なカンジがこの事件にはあふれていたのだ。

もし普通の事件の「色」が「赤」だとしたらこの事件の色は「虹色」だ。とらえどころがないような奇妙な色。しかしどこか神秘的で恐ろしい色。その色の中島は恐れ、探ろうとしている。

銀行の中を見渡す。運営は四日間ストップしていて、今は誰もいない。

犯人の供述はこうだった。

「自分の10倍ほどある大きさの、狐のような化け物が突然現れた。拳銃をぶっ放した。弾が首の辺りに食い込んだが全く効かなかった」  
これだけだったならば中島は疑問を抱かなかっただけだ。かなり追いつめられた犯人が幻覚を見た。説明がつく。

しかしこの化け物を見たのは犯人だけではなかった。なんと人質たちもその化け物を目撃していたのだ。

警察は「精神的疲労からの集団幻覚」と判断したが、中島は納得できていない。たった4時間、危険にさらされただけで集団幻覚など見るだろうか。しかも全員？

銀行をもう一度見渡してみる。

ここに突然、得体の知れない化け物が現れたら、そんなところを想像したら、鳥肌が立った。

突然、中島の頭の中に電撃が走った。

「そっだ、アレはどこいった？」

天井をみる。しかし中島の探す物はない。

どうしても。ない。

となるとやはり……。。

中島は考えた。

あの日ここには本当に何かがあったんじゃないかと。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9625m/>

---

ドミンゲ

2011年10月7日17時56分発行